

# 年収300万円未満 4割

東京電力福島第1原発事故で福島県などから避難した約700人に現在の生活について尋ねたところ、年収300万円未満が約4割に上り、無職や非正規雇用の割合が増えていることが関西学院大災害復興制度研究所（兵庫県西宮市）の調査で分かりました。

## 原発避難700人

### 関学大調査

同研究所は7、9月、事故から10年を前に、支援団体を通じて避難者4876人に調査票を配布。694人（男性276人、女性411人、不明7人）から回答を得ました。うち52.2%（同7.6%）と続きま

人は福島出身で、他に東京や千葉などからの避難者もいます。約6割は自主避難でした。

## 無職・非正規が増

す。100万円未満や収入なしも事故前より増えており、300万円未満が全体の39.1%を占めました。無職（27.2%）やパート・アルバイト（21.9%）、専業主婦（12.2%）が事故前より増えた一方、農林水産業や自営業などは減少。交際も希薄になり、「何か困った時に助け合う親しい人がいる」は51.9%から19.3%に激減しました。

住民票は多くが元の住所に置いたままで、全体の30.4%は出身地域への愛着を「強く感じる」と回答。一方、福島出身者の65.3%は、除染や廃炉作業への不安などを理由に「福島に戻るつもりはない」と答えました。同研究所の斎藤容子主任研究員は記者会見で、「避難生活も復興もまだ終わっていないことが改めて分かった」と話しました。